

R7.11.17  
ヒツナ研修会

# 非言語期の発達と支援

## ～発語レディネスを支える視点～

子ども言語相談室cotocoto  
言語聴覚士西野しょうこ



# 自己紹介



- ・ 西野章子 言語聴覚士（国家資格）
- ・ 総合病院にて20年間小児から成人の言語訓練・嚥下訓練を実施
- ・ 行政委託として健診・発達相談に従事
- ・ 長崎大学子どもの心の支援に関わる高度人材育成プログラム講師
- ・ 長崎リハビリテーション学院非常勤講師
- ・ 放課後等デイ・こども園 スーパーバイザー
- ・ 2021年 こども言語相談室cotocoto開業
- ・ 2024年 ことばと学びの教室コトコト開設
- ・ 専門は小児の言語発達全般・構音指導・摂食指導・吃音・学習支援

# ことばの教室コトコト

子どもたちが自分の力を  
のびのびと出し切って  
人生を味わい尽くすために



子と言葉を  
つなぐ

特性を  
味わいに  
変える

子どもと  
その家族の  
ストーリーを  
応援する

# 未発語の子どもと関わる悩み

- ・毎回「なんとなく関わっている」感じがする
- ・目標設定が曖昧で、成果が見えにくい
- ・言語の前段階（共同注意・意図の読み取り・やりとりの芽）をどう評価すればいいかわからない

# ことばは教えるのではなく “育つ”

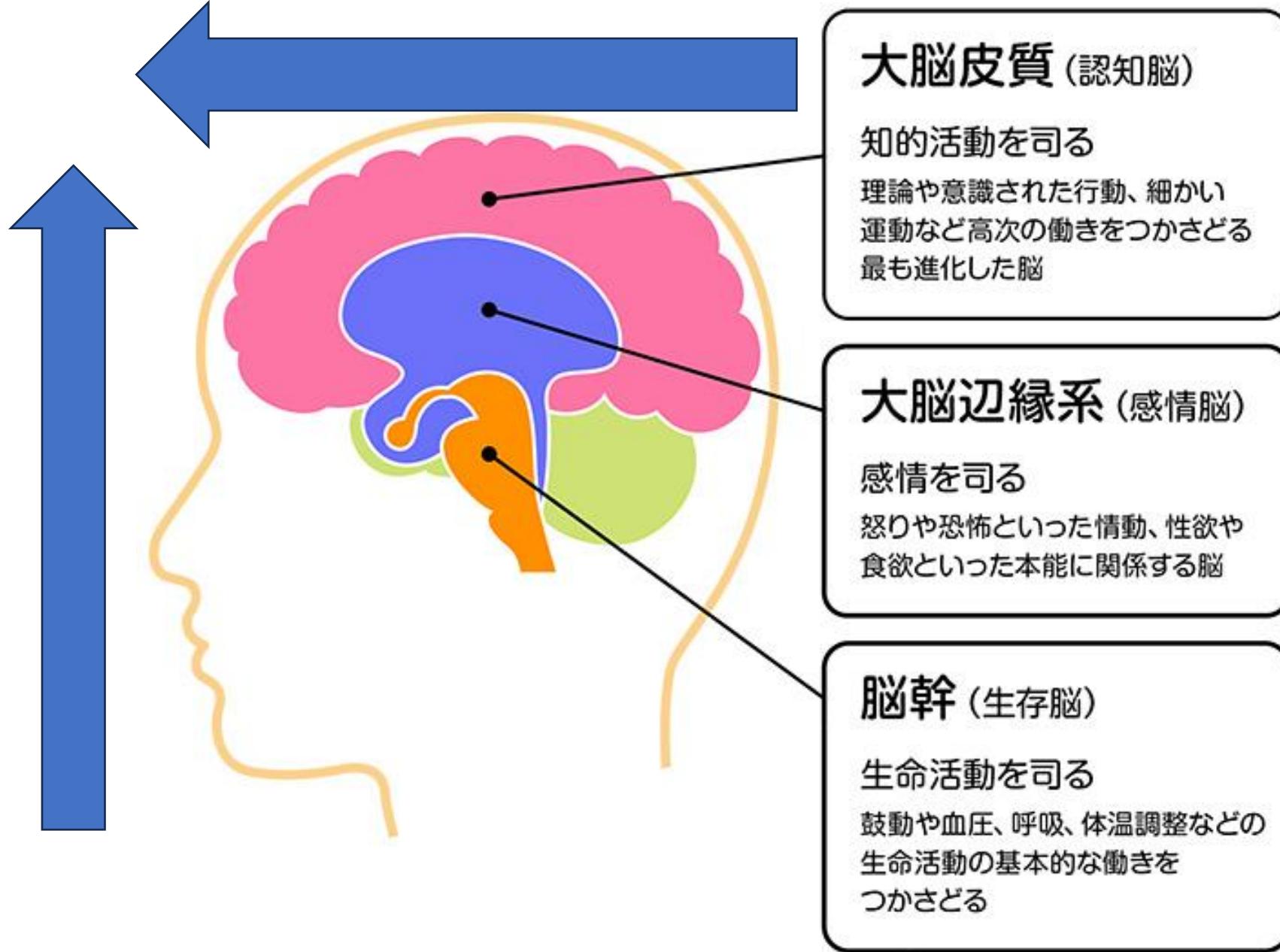
- ・子どもが安心してことばを発するには、土壤が必要
- ・もともとある力を発露させる
- ・土壤であるレディネス



# 身体を整える

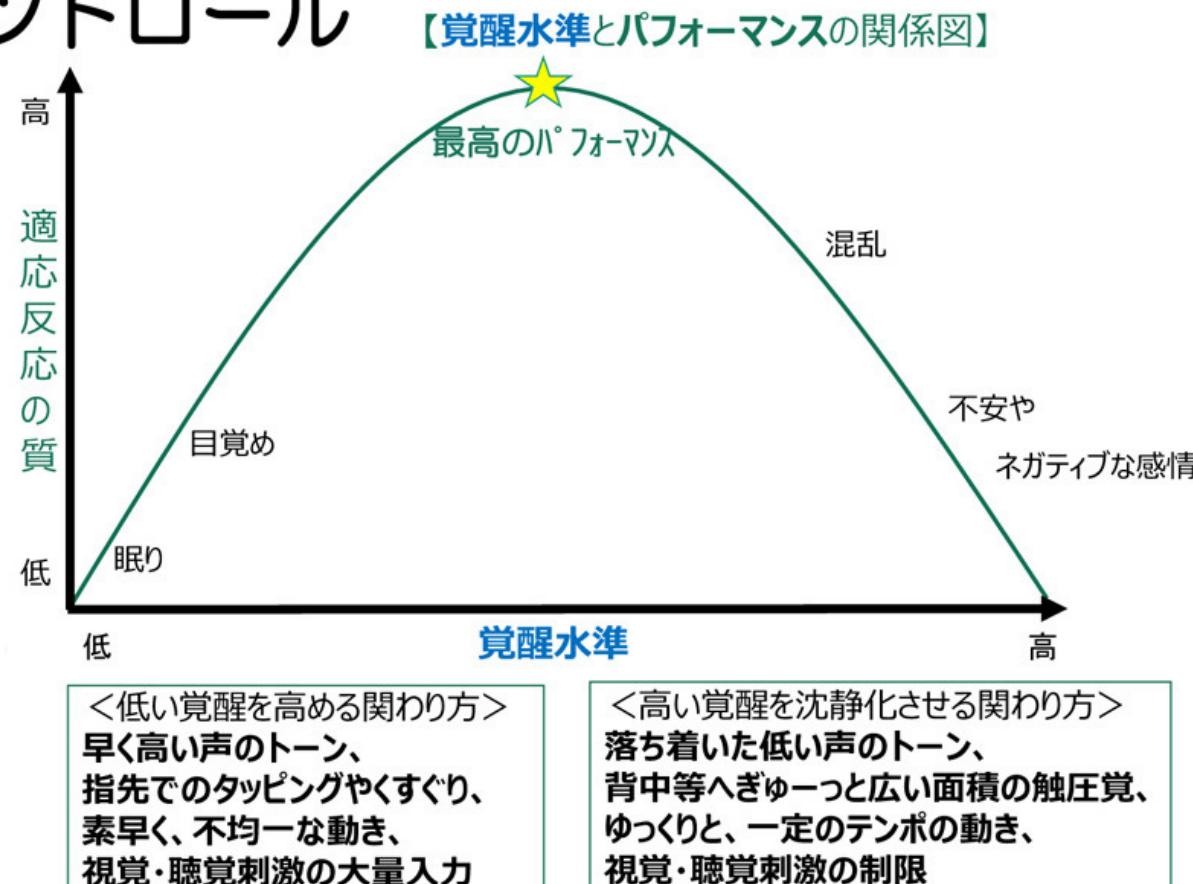
- ・生活リズム
- ・衣食住
- ・身体のケア
- ・保護者のケア

機嫌のいい身体作り  
健やかなものを健やかに育てる



# まずスイッチを入れる

## 覚醒水準のコントロール



# 第一章：言語発達

- ・子どもたちのことばの育ちや支援で、どのようなお悩みが？

# よくあるお悩み

- 1. 何を目指して支援すればいいのかわからない
- 2. 発語が出ない原因がわからない
- 3. 非言語の子への関わり方がわからない
- 4. 遊びが広がらない・続かない
- 6. 指差し・ジェスチャーがなかなかできない
- 7. 成長がゆっくりで “効果が見えにくい”
- 8. 家庭との連携がうまくいかない

# 発語が出ない（遅れる）原因 6 つ

- ① 言葉の材料の問題（理解・認知）
  - ② 伝えたい気持ちの問題（社会性）
  - ③ 口をどう動かすかの命令の問題（運動プログラミング）
  - ④ 口そのものの動きの問題（口腔機能・構音）
- 
- ⑤ 音の入力の問題（聴覚）
  - ⑥ 声が出にくくなる環境・情緒の問題

# 発達のレディネス

- ・ある学習や発達の課題に取り組むために必要な心身の準備状態
- ・発達のスタートラインに立てたサイン
- ・ことばが出る前に育つ「非言語的コミュニケーションの土台」
- ・見る・聞く・模倣する・共同注意・ジェスチャーなど
- ・これらが整うことで、発語がスムーズに立ち上がる



包丁の握り方が自然に安定したり、材料の見分け方が分かってきたりして、“さあ、いよいよ料理を作れるぞ”という状態がレディネス。

# 言語発達のレディネス

- ① 視線・顔認識（見る力）
- ② 聞く力（選択的注意・声の弁別）
- ③ ターンテイキング（やりとりの順番）
- ④ 状況の予測（anticipation）
- ⑤ 社会的微笑（社会的応答性）
- ⑥ 模倣（音声・動き・表情のコピー）
- ⑦ 共同注意（Joint Attention）
- ⑧ ジェスチャー・表情による理解（受容言語の前段階）

## ①②アイコンタクト・選択的注意

- ・生後すぐに母親の顔を見る
- ・人の顔を識別し「重要な他者」を学ぶ
- ・アイコンタクトは口の形・表情から言語情報を得る手がかり
- ・周囲の雑音から「人の声」を選んで聞く複雑なスキル

# 視覚

- ・新生児の視力は0.01 生後半年で急速に発達
- ・目の前の物をまんべんなく見るわけではない
- ・視覚的に注意をひきやすいモノとそれ以外を分けている
- ・図と地の弁別
- ・視覚的な知覚の恒常性



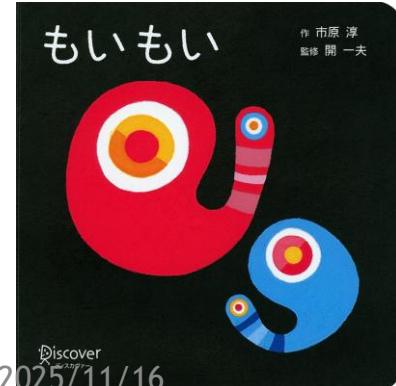
# 聴覚

- ・胎児期から母の声を聴いている
- ・乳児は高音域の声を好む
- ・ゆったりしたシンプルな声
- ・明瞭な声
- ・抑揚のあるイントネーション
- ・マザリーズの特徴

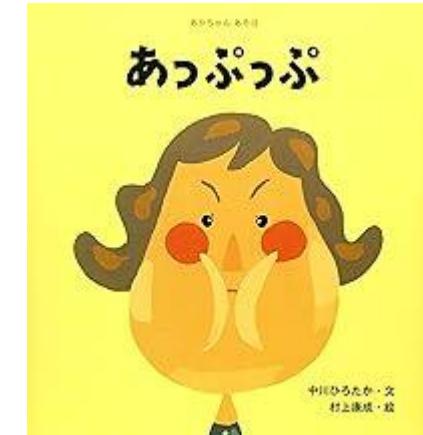


# 乳児が注視するもの

- ・動くもの
- ・白黒のコントラストが強いもの
- ・輪郭線があるもの
- ・複雑なもの
- ・特に人の顔を注視する（目や口が正面を向いた顔のパタン）



©cotocoto



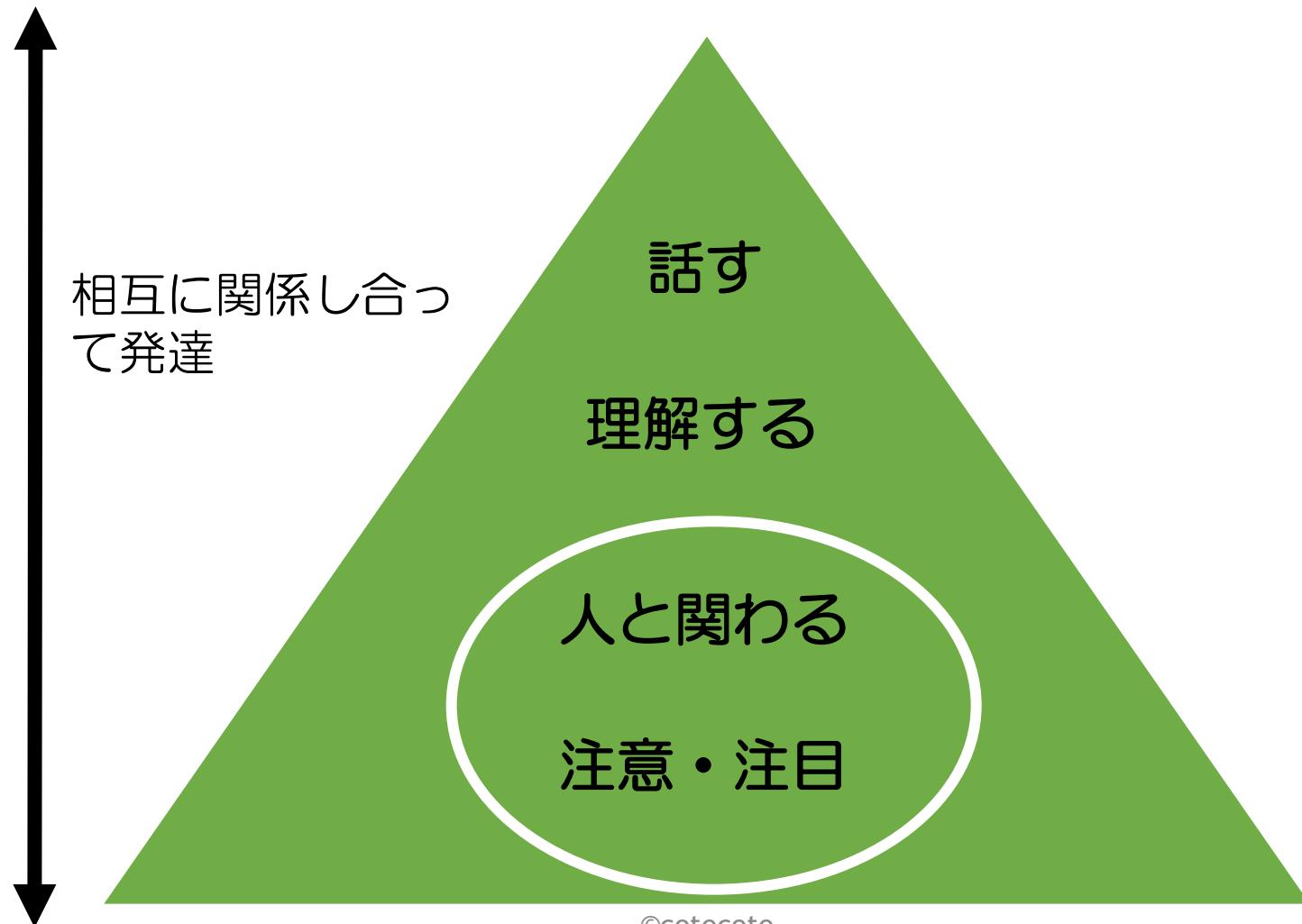
# 注意を向けるための工夫

- ・顔の近くにモノを持ってくる
- ・いったん消えて「ばっ」と出す (いないいないばあ作戦)
- ・好きな感覚入力をしながら
- ・指差しは子どもに見えやすい場所から

### ③ターンテイキング（やりとりの順番）

- ・新生児期から「順番」は育ち始める
- ・親が赤ちゃんの音・動きを解釈し、返すことで成立
- ・親が「反応のための間」を作り、赤ちゃんも応答を学ぶ  
(4か月頃囁語が重ならなくなる)
- ・やがて音→行動→ことばへと交互やりとりが発達

# 言語獲得のピラミッド



## ④予想（状況理解のはじまり）

- ・3ヶ月頃：特定の音（風呂の水音・近づく声）に反応
- ・状況理解・表情やジェスチャーへの敏感さが育つ
- ・早期から「表情や動きに意味がある」と気付き始める

# こうしたら、こうなる

- ・いないいないばあ
- ・生活のルーティーン
- ・玄関に行って靴を履く→「おでかけするんだ！」
- ・音楽が始まる→「おあつまりがはじまるんだ」

## ⑤社会的微笑

- ・生後6週間頃から笑顔が出現
- ・3ヶ月頃口を開けた大きな笑顔になる
- ・大人の反応を引き出し、社会的交流が加速
- ・大人が「返してくれる相手」とのコミュニケーションを強化

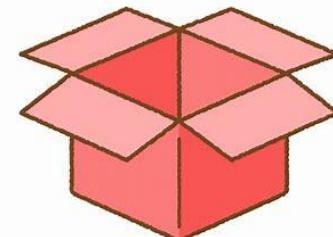
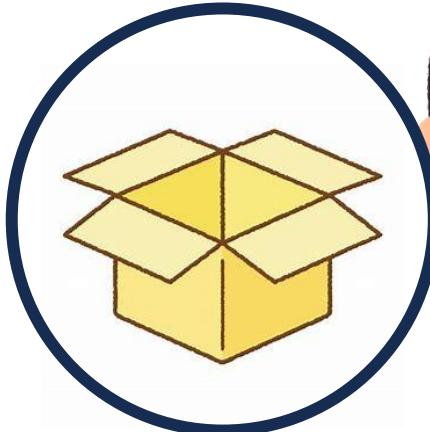
# 感情の理解

- ・3ヶ月の赤ちゃんは笑顔をよく見る
- ・1歳頃、ママの表情から安全かどうかを察せるようになる  
(笑顔で喜び安心・怒り顔で怖がり、悲しむ)



# 感情を表しながら関わること

- ・2歳の子どもに、大人が「怒り顔」／「ニコニコ顔」で「tomaを探しにいこう」と、無意味な言葉を聞かせた。
- ・子どもは「ニコニコ顔」をしたものを「toma」と認識した。
- ・ポイント  
子どもは大人の表情や感情の表れを手がかりにして、物や言葉の意味を理解しようとしている。



## ⑥模倣

- ・9ヶ月頃：手拍子・遊び声（唇を鳴らす・咳・ブルル）が模倣可能
- ・模倣は協力・社会的交流を促進
- ・言語発達が進むと、単語・文の模倣へつながる基盤

# 模倣の発達

- ・新生児：新生児模倣
- ・8～12か月：即時模倣  
→初めて見る手の動きをその場で模倣できる
- ・1歳～1歳半：遅延模倣（ごっこ遊び等）  
→観察した行動を記憶して再現するプロセス。観察から得た情報を時間が経ってからでも再現できる能力は、日常生活における学習に重要

## ⑦共同注意（Joint Attention）

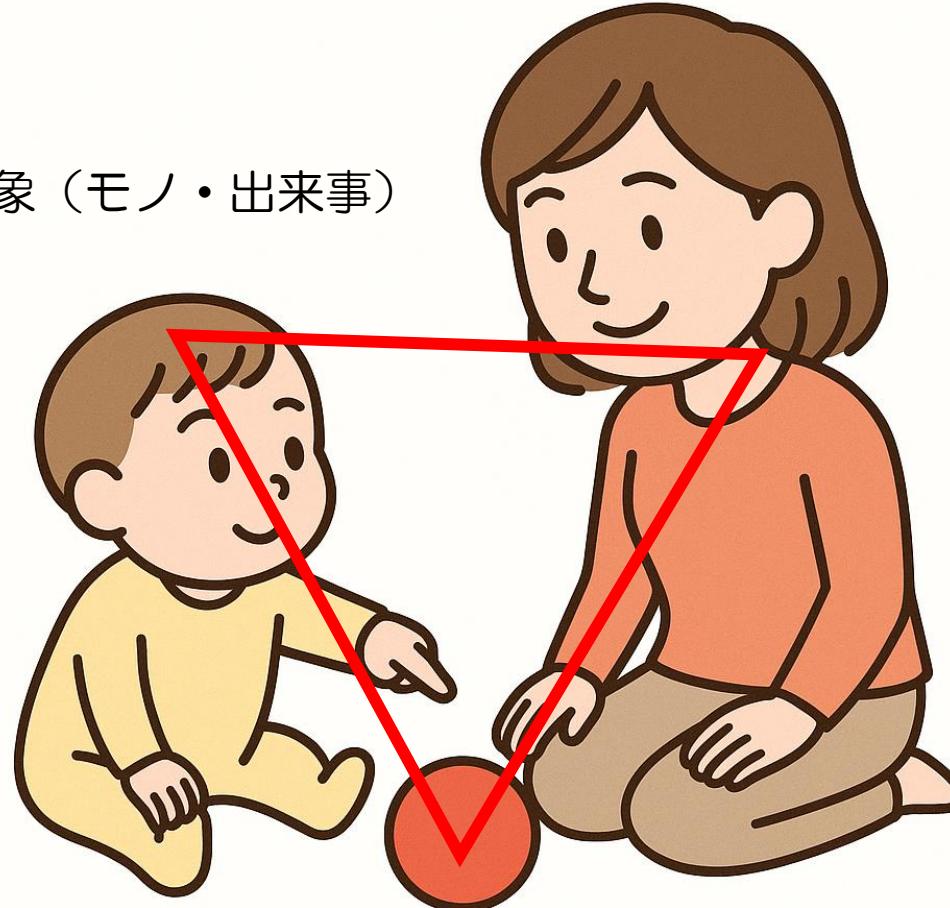
- ・他者の注意を追い、その人の視線・指差しを共有する力
- ・興味のある物へ大人の注意を向ける力
- ・12ヶ月までに指差しが出現（叙述的／要求／応答など）
- ・指差し経験が「物に名前がつく」機会を増やす
- ・言語スキルと非言語スキルは相互に関連して発達

# 指差し＝三項関係

三項関係：

大人（他者）／子ども／対象（モノ・出来事）  
この3つが関係し合う状態

言語発達の重要項目



# 共同注意

- 生後半年：  
対面する相手が右を見れば右、左を見れば左の方向
- 9ヶ月前後：  
相手の顔や視線の方向、指差しを手掛かり  
その人が注意を向いている事物に自分も注目するようになる
- 1歳代：  
他者の指差しに従う  
自分のうしろの少し離れたところを振り返ってみる  
共同注視ができるようになる



# 指差しの発達

- 
- ・興味（自発）
  - ・要求
  - ・叙述（共感） ←三項関係の成立
  - ・質問
  - ・応答
- 
- ・18か月までに叙述の指差しがない場合、人や物への気づきにくさ、気持ちの共有しづらさ、伝える力の伸びにくさなどのサインになるかも

## ⑧理解（受容言語のはじまり）

- ・1年目は、視線・表情・ジェスチャーなどの環境手がかりで理解が進む
- ・12ヶ月頃：「いいえ」「バイバイ」を理解
- ・大人の話すスピードが速すぎると、理解が追いつかないことが多い

# 言語表出のメカニズム



# 幼児への語り掛けの基本

ゆっくりした速度、強調された抑揚、高いピッチ、リズム  
言葉の繰り返し、単純な文型  
プラス1ワード



※ご注意  
言語発達の段階によって  
有効な語りかけは変化する  
(いつまでもこのままではない)

# ことばのシャワーにご注意

- ・話しかけることは大切だが、「一方的に浴びせるだけ」になってしまふと逆効果になることがある
- ・子どもが返事をするチャンスがなくなつて、「聞くだけの人」になつてしまふかも。
- ・理解が追いつかないと、混乱したり、聞いていないように見えることもある
- ・大事なのは「やりとり」ターンテイキング

## ⑧表現（非言語→発語へ）

- ・乳児は視線・表情・体の動き・発声・ジェスチャーで表現
- ・12～15ヶ月頃：初語が出現
- ・ことばの前に「伝える意図」がすでに育っている

# 子どものサインをキャッチして返す (応答的な関わり)

- ・いつも大人から「さあ遊ぼう！」と声をかけるのではなく、子どもが出している小さなサインに気づく
- ・まだことばになっていない、指さし・目線・体の向き・声のトーンなど、たくさんの発信に気付く
- ・興味を示さないものを無理にすすめるより、「これ好きそうだな」と思えるものを一緒に楽しむ方がやりとりが広がる

# インリアル 基本姿勢SOUL

- **Silence**：静かに待つ  
すぐに声をかけず、子どもが自分から動き出すのを待つ。
- **Observation**：じーっとみる  
「今、何をしようとしてるのかな？」と、子どものしぐさや表情をよく見る
- **Understanding**：気持ちを分かろうとする  
「泣いてるけど眠いのかな？」「手を伸ばしたのは欲しいってことかな？」と、気持ちを想像してみる
- **Listening**：耳を傾ける  
ことばだけでなく、声のトーンや体の動きなど、小さなサインにも耳をすませてみましょう。

12ヵ月

2  
～  
6

15ヵ月

10  
～  
20

36ヵ月

1000語

18ヵ月

50語

語彙爆発  
↓  
二語文

24ヵ月

200～  
300語

# レイットター

- ・聴力、認知発達、運動発達、社会性などに大きな遅れがない
- ・2歳代で
- ・単語が50語未満
- ・二語文がない
- ・診断名ではなく、臨床上の説明として使われる用語
- ・半数以上は3歳ごろまでに自然に追いつく
- ・残りの一部はその後も言語発達遅滞や発達障害につながるケースもある

# 言語発達に課題がある9つのサイン

1. アイコンタクトが短い／ほとんどない
2. 社会的微笑で応じない
3. 喜怒哀楽の声のバリエーションが乏しい
4. 哺語が少ない
5. 表情やジェスチャーの模倣が少ない

# 言語発達に課題がある9つのサイン

6. 声やジェスチャーで注意を引かない

7. 見せる／指差す／相手の関心を共有しようとしてない

8. 共同遊びを楽しみにくい

9. 表情・声のトーンの違いへの反応が弱い

# 発語レディネスに課題があると・・

- ・行動：うまく伝わらないことでフラストレーションが増える
- ・遊び：自発的な探索・楽しみが育ちにくい
- ・社会性：相互交流・妥協・社会的規範の理解が難しくなりやすい
- ・言語：理解の遅れ・単語・ことばによる表現が遅れがち
- ・注意・集中：活動の持続が難しい

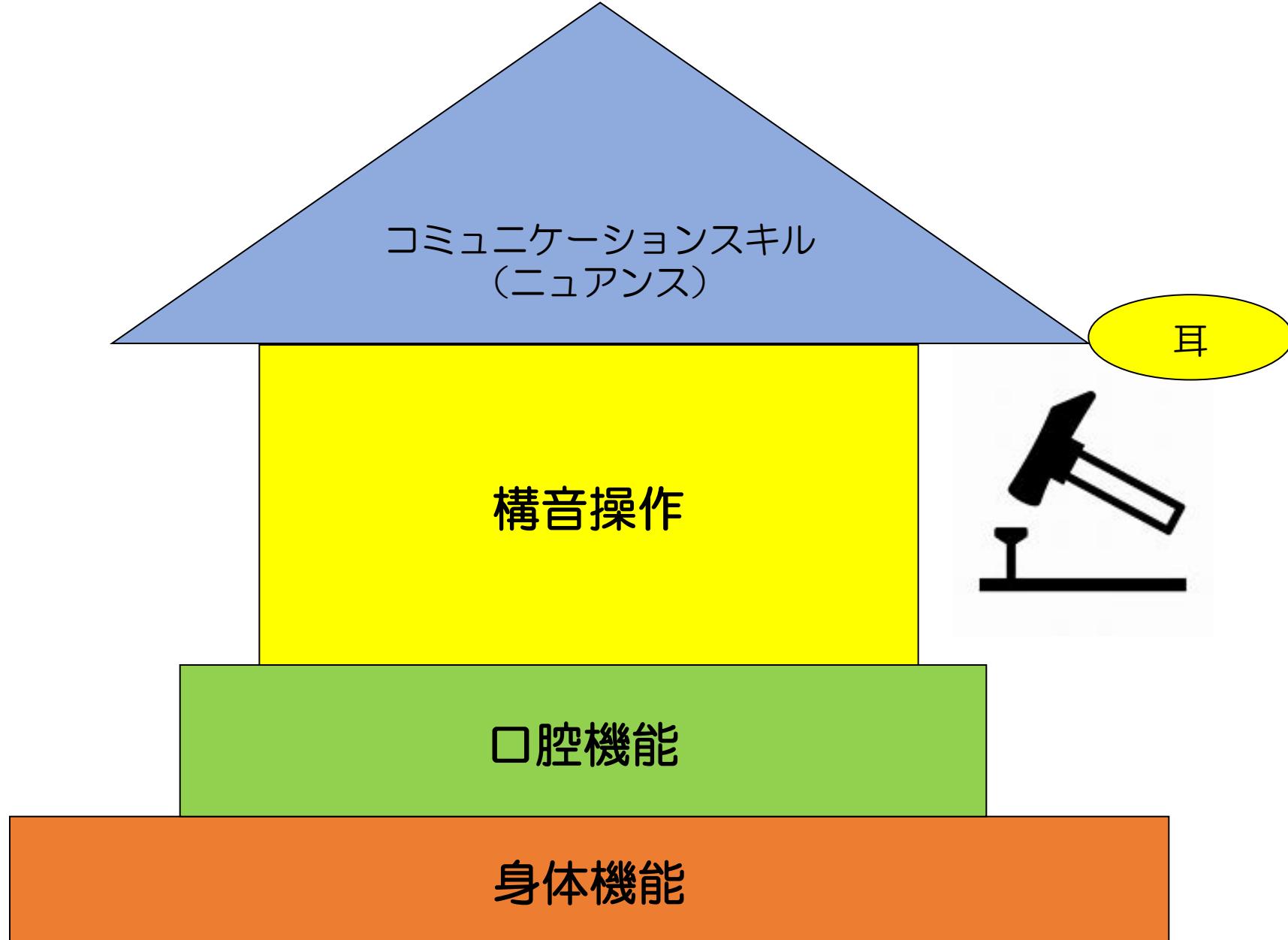
# 発語レディネスを育てる関わり

- ・毎日いっしょに遊ぶ
- ・日常行動を言語化し、言葉と体験を結びつける
- ・テレビ・音楽などのバックグラウンドノイズを減らす
- ・顔を見て話す（口型・表情が見える）
- ・子どもが理解しやすい簡単な言葉を使う
- ・子どもの視線をたどり、見ている物に言葉をつける
- ・声のトーンを変えて注意づけを行う

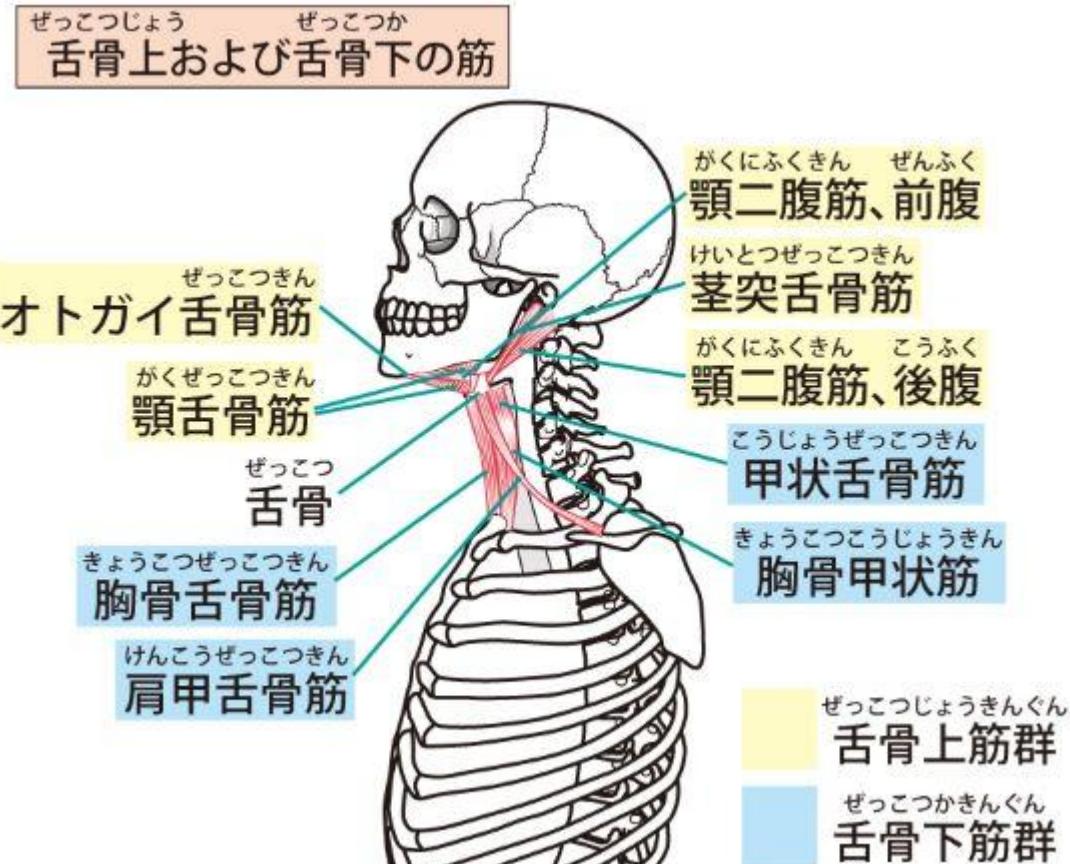
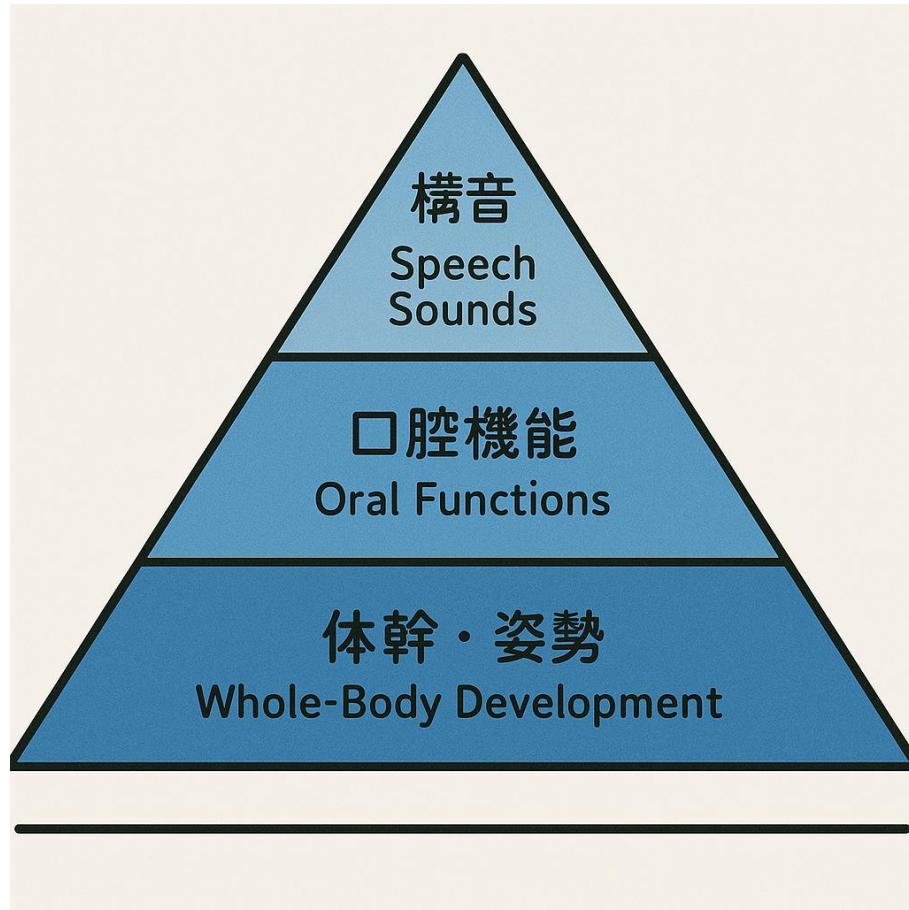
# 発語レディネスを育てる遊び・活動例

- ・いないいないばあ：アイコンタクトの促進
- ・おもちゃを顔の横に持ってくる：顔を見る経験
- ・帽子・メガネ・スカーフ遊び：視線誘導
- ・一緒に環境音を聞き、音について話す
- ・絵本読み（1-2ページでもOK）
- ・追いかけっこ・くすぐり遊び・かくれんぼ
- ・手遊び歌・童謡（アクションや緩急をつける）
- ・順番遊び：ボール転がし、交代で積み木

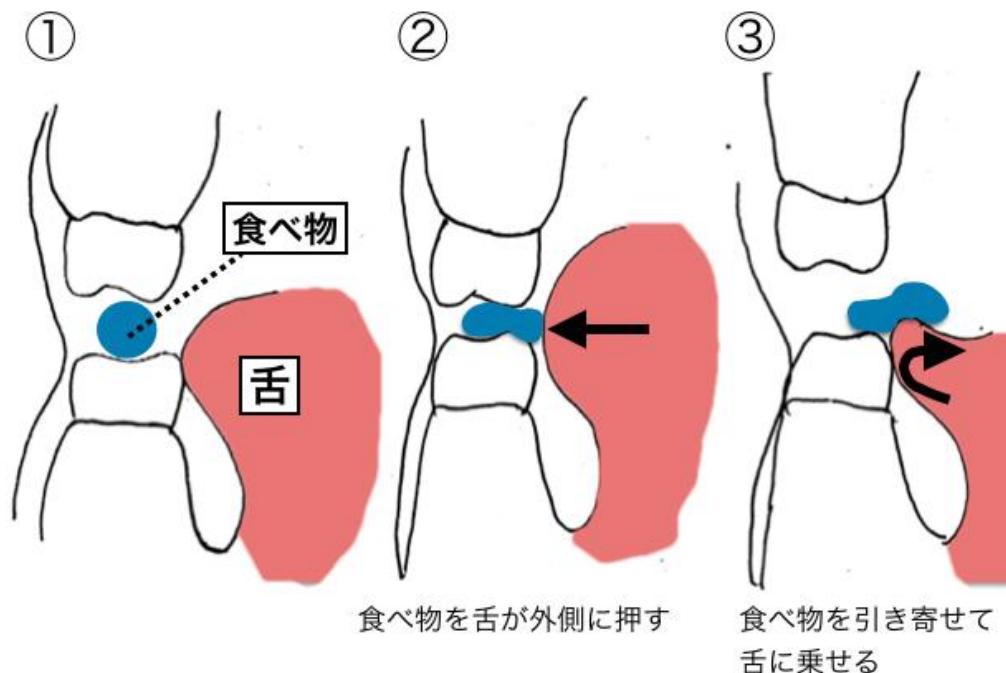
# 構音



# 口腔機能発達の全体像



# 臼歯を使っての咀嚼



- ・食べ物が落ちないように舌縁部で支える  
↓
- ・頬で押して舌の中央に寄せる  
↓
- ・唾液と混ぜながら再び舌縁部で臼歯に乗せる

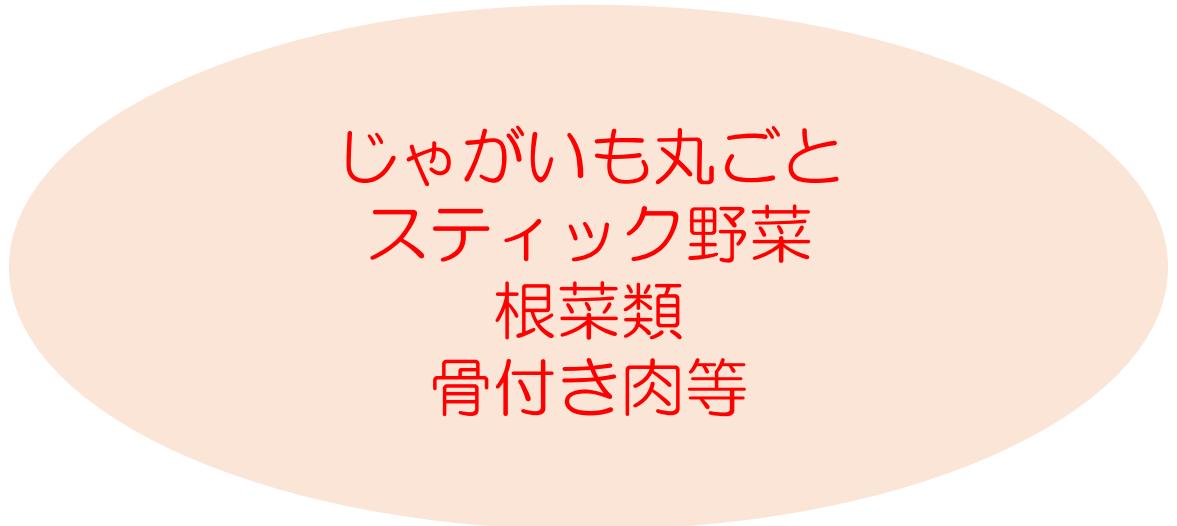
# 頭の位置がズレると口腔もズレる

- 姿勢  
⇒そり腰  
⇒仙骨座り  
⇒首が前に突き出す  
⇒顎が上がる



# かじりとりが摂食の流れをつくる

- ・前歯でかじる
- ・舌で奥歯茎に送る
- ・頬と舌で抑える
- ・顎を回旋させて咀嚼する
- ・寄せ集める
- ・ごっくん→息を吐く



じゃがいも丸ごと  
スティック野菜  
根菜類  
骨付き肉等

# 介助方法

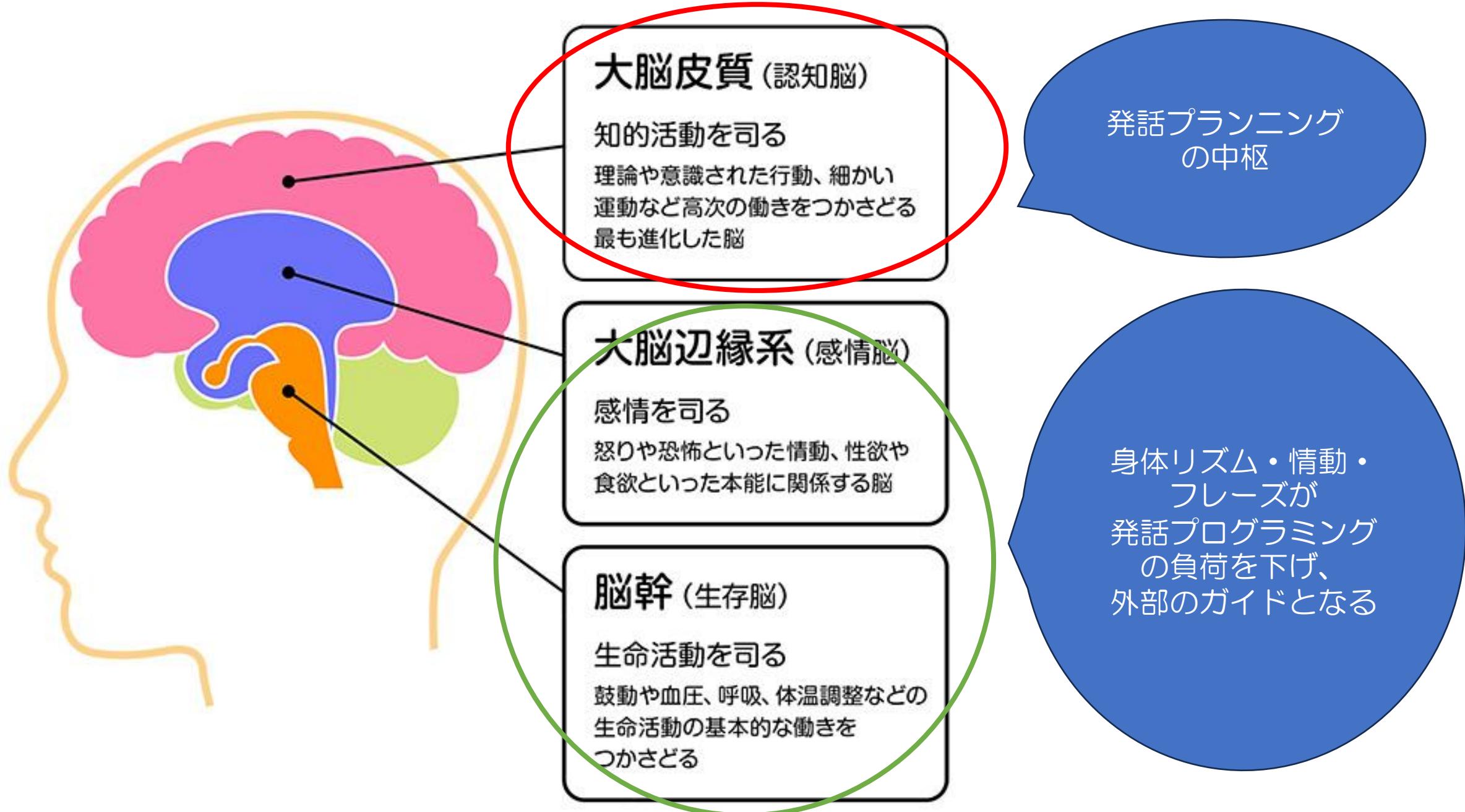
- ・口の手前の方に置く（奥まで入れない）
- ・スプーンの先にややこんもり
- ・まっすぐ入れて、上唇が下りてからまっすぐ抜く
- ・口の前で待たない
- ・正中を向かせる
- ・足の裏がつく椅子
- ・シリコンのエプロンは△

# 運動プログラミング

- ・頭の中では言いたいことがあるのに、口がその通りに動かない  
→「りんご」と言いたい脳が「舌をこう動かして、次に唇をこうして...」という指示を出すその指示がうまく組み立てられない

# 誤解

- ✗ 「舌や唇の筋力が弱いの？」  
→ 筋力の問題ではない。口の使い方のプログラミングの問題。
- ✗ 「練習すればすぐ改善する？」  
→ 単純な繰り返しでは変わらず、運動学習の考え方沿ったアプローチが必要。



# 発語プログラミングを助けるポイント

- ・決まり文句（新しいプランニング不要）
- ・インパクトのあるリズム（小脳が助ける）
- ・情動的な高まり（辺縁系が発動）
- ・動作とセット（運動前野の負荷が軽くなる）

# おすすめフレーズ

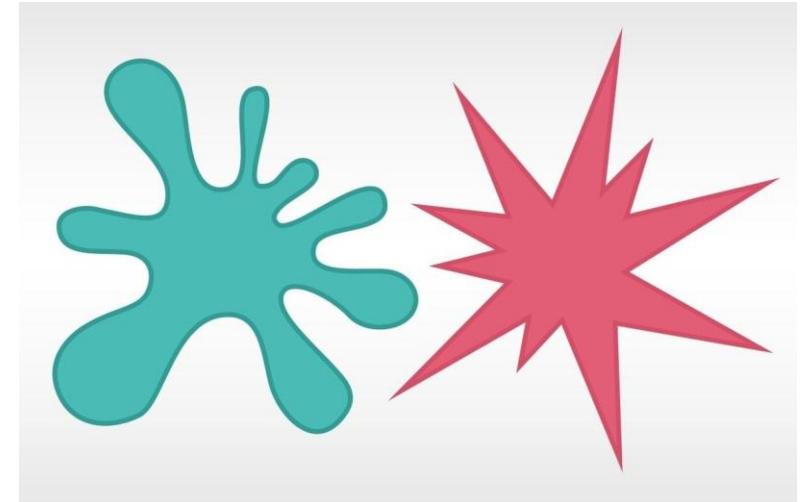
- ① しゅっぱつ～「しんこー！」
- ② いち・にの～「さん！」
- ③ よーい...「どん！」
- ④ セーの！「ぽん！」
- ⑤ (ジャンプしながら) 「ぴょーん！」
- ⑥ 「やったー！」 (ガツツポーズ)
- ⑦ 「がんばれー！」 (手拍子に合わせて)

# 視点が行動を変え、行動が結果を変える

- ・赤いもの探し：選択的注意
- ・ピグマリオン効果：育ちへの信頼が、育ちを支える現象
- ・ゴーレム効果：見限りのまなざしが、育ちを止めてしまう現象

# Bouba-Kiki効果"（ブーバ・キキ効果）

- ・音と形の感覚的な関連が人間の認知にどう影響するか
- ・言語音（音の響き）がどのように視覚的イメージと結びつくかという実験
- ・色鮮やかな世界で生き、色鮮やかな未来を作る子どもを。



# 光を当てて「ある」ものを育む

- ・子どもは、話し始める前から「伝えたい」を持って生まれてきます。そして、我々のまなざし・声・笑顔は、ことばになる前の“ことばたち”を育てています。
- ・「ことばが遅い＝特別な場所での支援」ではなく「今、この子はどんな風に世界とつながろうとしているのか」を見つめることで、今ここでできる育ちの応援方法が見えてきます。
- ・見えない育ちに光を当て、「ある」ものを大切に育んでいきたいと思います。



# ことばの教室コトコト



- オンライン相談
- オンライン研修
- 個別言語訓練
- 園・クリニックでのことばの教室